

# ダニエル書 - 第198号

聖なる集いと預言的な一致：ダニエル書11章40節の終末論的枠組みにおける十四万四千人の役割

Jeff Pippenger

2024-05-01

私たちは、教皇制の線、背教的共和主義の線、背教的プロテスタント主義の線、そして十四万四千人の線を、ダニエル書11章40節の隠された歴史の中に位置づけている。現在、キリストがご自分の民を二度集められることを扱っており、民を二度目に集めることに関するすべての例証は、十四万四千人の最終的な封印の過程を表している。

改革の道筋において神のしるしが下るとき、主は選ばれた民を集め、その後彼らは試練にかけられる。試練の過程の終わりには散らされ、その後、試練に合格できなかった多くの者が取り残される一方で、主はその選ばれた民を二度目に集められる。キリストはご自分のバプテスマのときに弟子たちを集め始め、十字架において弟子たちは散らされた。復活後、ペンテコステに先立って、キリストは弟子たちを二度目に集められた。この道筋は、日曜法の直前に十四万四千人に対する第二の集めが行われることを示しており、その日曜法はペンテコステを型として示されている。十字架は失望を示し、その後に第二の集めが続く。

十字架の後の第二の集まりは、キリストが復活後、御父とお会いになったのちに下って来られたときに始まった。神のしるしが下ると、神の民はそのメッセージを食べるべきであり、キリストも下って来られた後、弟子たちと食事を共にされた。

彼らと一緒に食卓についていると、彼はパンを取り、祝福して裂き、彼らに与えた。すると彼らの目が開かれ、彼だとわかったが、彼は彼らの目の前から見えなくなった。  
ルカによる福音書 24:30、31。

十字架の後、二度目の集まりで、キリストは弟子たちに聖霊を「吹きかけた」。

キリストが弟子たちに聖霊を吹きかけ、彼らにご自身の平安をお授けになったその御業は、ペンテコステの日に与えられる豊かな降り注ぎに先立つ、ほんの数滴のようなものであった。『預言の霊』第3巻、243頁

1844年4月19日の失望の後の第二回の集会で、キリストは1843年の誤りから御手を引かれた。

「主がなぜおいでにならなかったのかを理解できずに失望した忠実な人々は、闇の中に見捨てられたのではなかった。彼らは再び聖書へと導かれ、予言の期間を調べた。主の御手はその数字から取り去られ、誤りは明らかにされた。彼らは、予言の期間が1844年にまで及ぶこと、そして予言の期間が1843年に終わることを示すために自分たちが提示していたのと同じ証拠が、むしろそれが1844年に終わることを証明しているのを見た。」『初期の著作』237ページ。

その失望のとき、第二の天使は「手に書き物を持って」降臨した。

「もう一人の力強い天使が地上に下るように命じられた。イエスは彼の手に書を与え、彼が地上に降りたとき、こう叫んだ。『バビロンは倒れた、倒れた。』」Early Writings, 247.

第二の天使の到来とともに始まったその試みの過程は、エクセターのキャンプ集会において聖霊が注がれ、メッセージが津波のように広がったときに完結した。その試みの過程は、十字架の後、五旬節に聖霊が注がれるまでに五十日の期間が置かれ、その五十日は最初の四十日と、その後続く十日から成り、五旬節で締めくくられた、というかたちで明確に示された。

「神の民は、絶えず祈りによって神に求め続けるべきである。初代の弟子たちが嘆願して十日間を過ごし、あらゆる不一致を取り除き、心を深く探って一致し、罪を告白してそれを捨て去り、聖なる交わりの中に一つに結び合わされた後に、聖霊が彼らの上に臨み、キリストの約束が成就した。そこには驚くべき聖霊の注ぎがあった。突然、激しく吹きつける力強い風のような音が天から起こり、彼らが座っていた家全体を満たした。『そしてその日、彼らに加えられた者はおよそ三千人であった。』」Review and Herald, 1909年3月11日。

キリストは四十日の間、弟子たちを教え導くために彼らと共におられ、その後、昇天された。その後の十日間は、五旬節における聖霊の注ぎに備える期間であった。十字架の後に続いた四十日の教えは、1844年4月19日から1844年8月12日のエクセター野外集会の開始に至るまでの期間に相当する。ペンテコステに先立つ十日間は、1844年8月12日から17日までを表しており、その時、ミラー派はサミュエル・スノーによってもたらされた「真夜中の叫び」のメッセージで一致した。その野外集会において二つのグループが現れ、会の終わりに五旬節の注ぎを受けたのは一方のグループだけであった。四十日で表されているその期間においては、一方のグループは教えを受け入れ、もう一方はその教えを拒んだ。真夜中の叫びが到来したとき、一方のグループは油を持っており、もう一方は持っていないかった。

『花婿の来るのが遅れている間、彼らは皆まどろみ、眠ってしまった。』花婿の遅れは、主の来臨が期待されていた時が過ぎ去ったこと、その結果の失望、そして見かけ上の遅延を象徴している。この不確かさの時期には、上辺だけで半心半意の人々の関心はたちまち揺らぎ、努力も緩みはじめた。しかし、聖書を自ら学んで得た知識に基づいて信仰を持っていた人々の足もとには岩があり、失望の波もそれを洗い流すことはできなかった。『彼らは皆まどろみ、眠った。』一方の人々は無関心と信仰の放棄のうちに、もう一方の人々は、より明瞭な光が与えられるまで忍耐して待っていた。とはいえ、試練の夜の中で、後者もある程度は熱意と献身を失ってしまったかのように見えた。半心半意で上辺だけの者たちは、もはや兄弟たちの信仰に頼ることはできなくなった。各人が自分自身で、立つか倒れるかを決しなければならなかった。『大いなる論争』395頁。

ペンテコステに至る十日の間とエクセターのキャンプ集会の期間に、キリストは、ご自分のメッセージを世界に携えて出ていく人々に備えて、二度目にご自分の民を集められた。1844年10月22日に第三の天使が降臨したとき、小さな群れは再び失望して散らされたが、同じ1844年10月22日に、キリストがご自分の民を至聖所へと導かれたので、教えの

期間が始まった。1849年、主は二度目に御手を伸ばし、1844年4月19日と10月22日の失望のただ中から集め出しておられた者たちを、再び集められた。

1844年に与えられた教えは、第三の天使が降りてきたときに手にしていたメッセージに関するものだったが、「大失望」に続く「疑いと不確かさの時期」に、多くの人々が道を見失った。1849年までには、散らされた小さな群れを集める働きが始められたが、その歴史によって示されていたのは、1863年の敗北と、現代イスラエルにとっての第一のカデシュであった。十四万四千人の将来の勝利と第二のカデシュにおける彼らの働きは遅れた。

2001年9月11日に主が降臨されたとき、主は終末の民を集め、彼らに食べるための霊的な食物を与え、後の雨を降り注ぎ始めるとともにその人々に御霊を吹きかけ、さらに2020年7月18日へと至る試練の過程を開始された。その日、主の終末の民は失望して散らされた。三日半の間、彼らは通りで死んだままだった。この三日半も、キリストの時代の四十日の期間も、ともに荒野を表している。またそれは、1844年4月19日から1844年8月12日までの期間、そして1844年10月22日から1849年までの期間によっても表されている。

2023年7月から五旬祭に先立つ十日間である日曜令に至るまでの期間、8月12日から8月17日までのエクセターでのキャンプ集会、そして1849年から1863年までの期間は、互いに一致している。これらは、終わりの時の神の民の第二の集結の期間を表している。失望から聖霊の注ぎに至る期間は、二つの明確に区別された時期に分けられる。

ダニエル書11章40節の隠された歴史の中には、背教的プロテスタンティズム（名目上の教会）の系統、ラオデキア的セブンスデー・アドベンチズム（名目上のアドベンチズム）の系統、カトリックの系統、そして真のプロテスタンティズムの系統がすべて表されている。これら四つの系統は、竜（ユダ）、獣（カトリック）、偽預言者（背教的プロテスタンティズム）からなる三者連合と対立する真のプロテスタンティズムを示している。

まさに同じ隠された歴史の中で、背教的な共和主義の系譜もまた示されている。その系譜の中では、民主党（竜）と共和党（獣の像）の間の論争が表されている。共和党は獣の像を形成することを率先して進め、そうすることによって、獣（教皇制）の預言的特徴を現す。神の言葉において、北の王であり同時に獣でもある教皇制は、裁きの道具として神に用いられたことへの報酬として、エジプト（竜）を与えられる。

人の子よ、バビロンの王ネブカドネザルは、ツロに対してその軍勢に大いなる労苦をさせた。すべての頭ははげ、すべての肩はすりむけた。しかし彼もその軍も、ツロに対して仕えたその労苦に対して報酬を受けなかった。それゆえ、主なる神はこう言われる。見よ、わたしはバビロンの王ネブカドネザルにエジプトの地を与える。彼はその群衆を捕らえ、その戦利品を取り、その獲物を取る。それが彼の軍の報酬となる。彼がツロに対して仕えた労苦のゆえに、わたしはエジプトの地を彼に与えた。彼らはわたしのために働いたからである、と主なる神は言われる。その日、わたしはイスラエルの家の角を芽生えさせ、彼らのただ中であなたに口を開かせる。こうして、彼らはわたしが主であることを知る。エゼキエル書 29:18-21。

その箇所では北の王であるネブカドネザルは、その報酬としてエジプトの地を与えられる。これは、終わりの日に、法王権がエジプト、すなわち竜、すなわち十人の王、すなわち

国際連合を与えられることの型であり、彼らはしばらくの間、自分たちの第七の王国を獣に与えることに同意することを表している。

あなたが獣の上に見た十の角は、淫婦を憎み、彼女を荒れ果てさせ、裸にし、その肉を食らい、火で焼き尽くす。というのは、神が彼らの心に、ご自身の御旨を成し遂げ、心をつにして、神の言葉が成就するまで彼らの王権を獣に渡すようにと、思いを与えたからである。黙示録 17:16、17。

この預言的な支払いは、ダニエル書11章42節にも示されています。

彼はまた諸国に手を及ぼし、エジプトの地も免れない。ダニエル書 11:42。

教皇権は後の雨の時に竜の勢力に打ち勝つ。というのも、この支払いは、神が「イスラエルの家の角を芽生えさせる」その「日」に行われるからである。神のイスラエルを芽生えさせるのはその雨であり、その日は2001年9月11日に始まった。すなわち、それは東風の日であった。

彼はヤコブから出る者たちに根を下ろさせる。イスラエルは花咲いて芽を出し、その実で地の面を満たす。彼を打った者たちを打ったのと同じように、彼は打たれたのだろうか。あるいは、彼によって殺された者たちが殺されたのと同じように、彼は殺されたのだろうか。定めに従い、それが伸び出すとき、これと論じられる。東風の日には、その荒い風はとどめられる。このことによってヤコブの不義は清められ、彼の罪を取り除くすべての実はこれである。彼が祭壇のすべての石を、打ち砕かれた白亜石のようにするとき、木立も像も立たなくなる。イザヤ書 27:6-9。

後の雨が注がれているとき、エジプトは教皇権の獣に与えられる。後の雨は、第三の災いにおけるイスラムを象徴する東風が2001年9月11日に「止められ」、すなわち抑制されたときに、ぱらつき始めた。それから、イスラエルが芽吹き始めると、雨は量り分けられて（ぱらつくように）降りかかった。日曜法るとき、第三の災いが再び来ると、後の雨は無制限に注がれる。2001年9月11日から、まもなく来る日曜法までの間に、「ヤコブの不義」は清められ、ヘブライ語の「清める」に当たる語は「贖う」を意味する。日曜法るとき、十人の王たちが教皇権と姦淫し、全世界的な獣の像を造ることによって、教皇権の獣にエジプト（竜）が与えられる。

日曜法令以前、十四万四千人の封印の時期に、背教した共和党の角が背教したプロテスタントの角とともに獣の像を造り、その預言の筋では、共和党が民主党に勝利する。というのも、民主党は竜の勢力であり、共和党は教皇制の像を形成する勢力だからである。

地の獣の預言的歴史の中で、民主党の終焉と共和党の終焉が特定されている。これら二つの政党は共和主義の角を形成しているが、彼らは地の獣の全歴史を貫く内部闘争を示している。その角（共和）は、地の獣の二本の角の内部的な縮図を内包している。

メディアとペルシャの王国の証しでは、最後に生え出た角がより高くなった。アメリカ史では民主党が先に始まったが、最後には共和党のほうがより高くなり、民主党に打ち勝つ。2001年9月11日に始まった後の雨の歴史において、グローバリストで竜に靈感を受けた民主党が、黙示録11章の底なしの穴から上ってきて、2020年の選挙を盗むことによって共和党を打ち倒した。彼らのトランプ（および共和党）に対する戦争は、彼が2015年に

出馬を表明したときに始まり、その時点以降は激化するばかりであった。

2020年に民主党が選挙を盗んだとき、彼らはその後ペロシ裁判を始めた。しかし、2022年にトランプが三度目の出馬を発表すると、民主党に恐れが襲い、彼らの怒りはいっそう募り、彼らは自分たちに残された時間が短いと知っていたので、大いなる憤りをもってトランプとその支持者たちに立ち向かった。彼らは彼の死を祝ったが、彼が立ち上がると、大いなる恐れが彼らを襲った。

そして、彼らはその証しを終えると、底なしの淵から上ってくる獣が彼らに戦いを挑み、彼らに打ち勝って、彼らを殺す。彼らの死体は大いなる都の大通りにさらされる。そこは靈的には「ソドム」と「エジプト」と呼ばれ、わたしたちの主もそこで十字架につけられた。諸民族、諸部族、諸言語、諸国民に属する人々は、三日半のあいだ彼らの死体を見、彼らの死体が墓に納められることを許さない。地に住む者たちは彼らのことで喜び祝い、互いに贈り物を送り合う。というのも、この二人の預言者が地に住む者たちを苦しめていたからである。ところが、三日半ののち、神からのいのちの霊が彼らのうちに入り、彼らは自分の足で立ち上がった。それを見た者たちの上に大いなる恐れが臨んだ。黙示録 11:7-11。

民主党の終わりを画する期間は、2021年のバイデン就任から2025年のトランプ就任までである。この期間は、純粹に違憲で、完全に政治的な性質のものであったペロシ裁判から始まった。その歴史は、1989年の終わりの時以後の6人目の大統領の死から、七人に属する8人目の大統領に至るまでを示しており、政治裁判（ペロシ裁判）から始まり、政治的標的が逆転する中で、民主党の死と二度目のペロシ裁判で終わる。

この歴史の例証は『ヨハネの黙示録』第11章にあり、その最初の成就是フランス革命において見られる。フランス革命は、一方の支配勢力が他方を殺害し、その後と同じその支配権力が今度は打倒され、迫害の対象となるという、ギロチン型の政治闘争の古典的な歴史的事例である。

バイデンの就任とペロシ裁判から、トランプの二度目の就任とペロシ裁判の取り消しに至るまでの期間は、民主党の終焉を示し、また、外国人・治安法に象徴される一連の大統領令の実施をトランプが繰り返す時期を示している。これら的大統領令の実施は第二次ペロシ裁判を開始し、獣の像が本格的に始まる期間の始まりを示す。その期間は日曜法の施行で終わる。したがって、その期間は外国人・治安法に類似した大統領令で始まり、日曜法で終わる。そこで共和党は終焉を迎える。

民主党の終結を表す時期と、その後の共和党の終結を表す時期の双方は、預言的に結びついており、1776年から1798年に至る22年間によって表されている。この期間には三つの道標がある。1776年の独立宣言、その13年後の合衆国憲法、そして1798年の外国人・治安諸法である。これら三つの道標は民主党と共和党の系譜において成就を見るが、第二と第三の道標が適用される時点は、それぞれの系譜で異なっている。

これらの道しるべとその実現については、次回の記事で説明します。

二つの陣営しかない。サタンはその歪んだ欺きの力をもって働き、強い惑わしによって、真理にとどまらず、真理から耳をそむけて作り話に向いてしまった者をことごと

く捕らえる。サタン自身が真理にとどまらなかった。彼こそ不法の奥義である。彼の狡猾さによって、魂を滅ぼす誤りに真理らしい外見を与える。そこにこそ、それらの人を欺く力がある。それらが真理のにせものであるがゆえに、心霊主義、神智学、その類の欺きが、人の心にこれほどの力をふるうのだ。ここにこそサタンの巧妙な働きがある。彼は人間の救い主、人類の恩人を装い、こうして犠牲者たちをいっそうたやすく滅びへとおびき寄せる。

私たちは神の言葉において、不断の警戒こそが安全の代価であると警告されている。真理と義のまっすぐな道を歩むときにのみ、私たちは誘惑者の力を免れることができる。しかし世は絡め取られている。サタンの巧妙さは、自らの目的を遂げるために、数え切れない計画や方法を案出することに発揮されている。彼にとって偽装は洗練された技芸となっており、光の天使の装いで働く。見かけ上は真の善のように見える偽りで破滅的な原理によって世界を汚染しようとする彼の企みを見抜くのは、ただ神の御目だけである。彼は宗教の自由を制限し、宗教界に一種の奴隷状態をもたらそうと働く。組織や制度は、神の力によって守られていない限り、サタンの指図のもとで、人を人の支配下に置くために働くようになり、詐欺と奸計は、真理と神の国の前進のための熱心を装うだろう。私たちの実践において、白日のように開かれていないものは何であれ、悪の君の方法に属する。彼の方法は、進んだ真理を持つと主張するセブンステー・アドベンチストの間にさえ行われている。

もし人々が主が彼らに送られる警告に抵抗するなら、彼らは悪しき行いの指導者にさえなる。こうした者たちは自ら神の特権を行使しようとし、人間の心を支配しようとして、神ご自身でさえなさないことをあえてしようとする。彼らは自分たちの方法や計画を持ち込み、神に対する誤解によって、真理に対する他者の信仰を弱め、パン種のように働いて私たちの諸機関や教会を汚し墮落させる偽りの原則を持ち込む。義と公正と公平な裁きに対する人の観念を低めるものは何であれ、また、神に仕える人々を人間の思惑の支配下に置くようなあらゆる策や教えは、彼らの神への信仰を損なう。それは厳格な誠実と義の道から人を逸らし、魂を神から引き離すからである。

神は、人が同胞を少しでも支配し、虐げることになるいかなる策も、決してお認めにならない。墮落した人間の唯一の希望は、イエスに目を向け、ただ一人の救い主として受け入れることである。人が他の人々のために鉄の掟を設け、自分の思いどおりに人々にくびきをかけて駆り立てようとし始めるやいなや、彼は神を辱め、自らの魂と兄弟たちの魂を危険にさらす。罪深い人間は、ただ神のうちにのみ希望と義を見いだすことができる。人間は、神への信仰を持ち、その方との生きた結びつきを保っている間だけ義なのであって、それ以外のときには、だれひとり義ではない。野の花は土に根を下ろしていなければならず、空気と露と雨と日光を必要とする。これらの恵みを受けるときにのみそれは栄え、そのすべては神から来る。人間も同様である。私たちは、魂のいのちを養うものを神から受け取る。私たちは、人に信頼せず、肉を自分の腕としないように、と警告されている。これを行うすべての者には、のろいが宣告されている。